

ラジオカセットコーダー

取扱説明書 / Operating Instructions / XXXXXX

お買い上げいただきありがとうございます
警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。
 この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
 お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

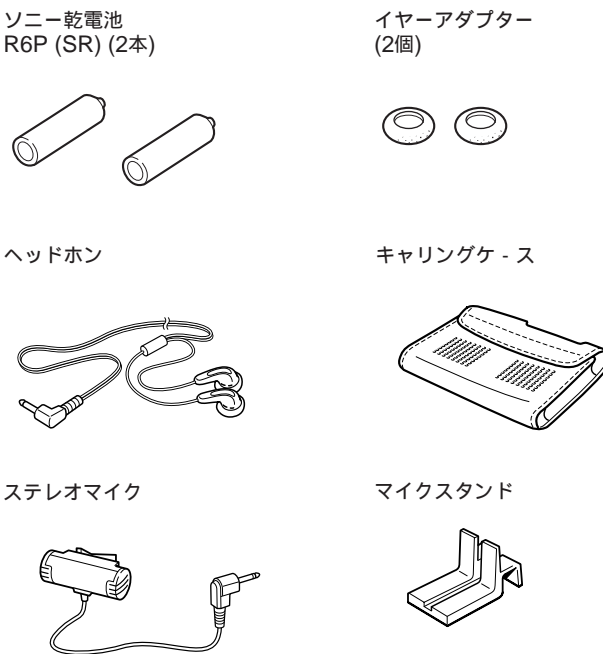
WM-GX322 WALKMAN WALKMANはソニー株式会社の登録商標です。
 WALKMAN is a registered trademark of Sony Corporation.
 Sony Corporation © 1997 Printed in China
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 XXXXXXXXXXXXXXX

ご注意
 ・録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
 ・ラジオカセットコーダーの不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。
 ・あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

主な特長

- ・耳にやさしい音量にする、音量リミットスイッチ。
- ・低音を強調する、低音増強スイッチ。
- ・テープを連続再生する、オートリバー。
- ・テレビ(1~3ch)の音が聞ける、FMチューナー。
- ・ヘッドホンなしでも聞ける、前面高出力ステレオスピーカー。
- ・再生スピードが調節できる、スピードコントロール機能。

付属品を確かめる



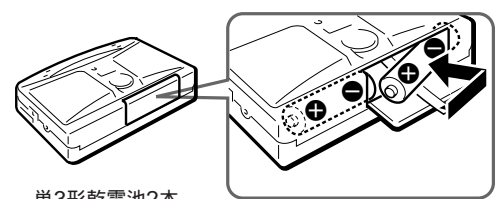
取扱説明書
 ソニーご相談窓口のご案内
 保証書

準備する

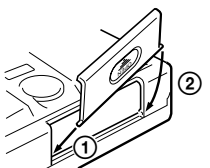
ここでは乾電池での使いかたを説明します。コンセントでの使いかたは、裏面の「電源」をご覧ください。

1 乾電池を入れる

単3形乾電池2本を、+、-を確かめて入れます。

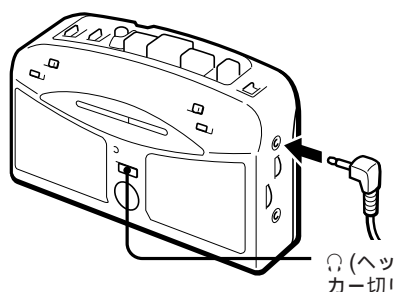


電池ぶたがはずれたときは図のように取り付けます。

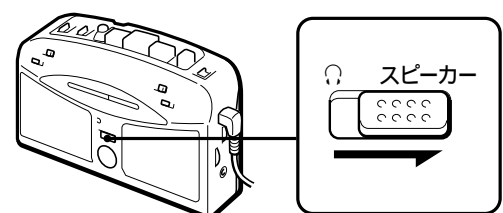


2 ヘッドホンをつなぐ

○(ヘッドホン)・スピーカー切り換えスイッチを○(ヘッドホン)に合わせます。



スピーカ - で使うには
 ○(ヘッドホン)・スピーカー切り換えスイッチを「スピーカー」に合わせます。
 スピーカーから音声再生され、ヘッドホンからは音が聞こえなくなります。また、音量リミットスイッチ、低音増強スイッチは働きません。

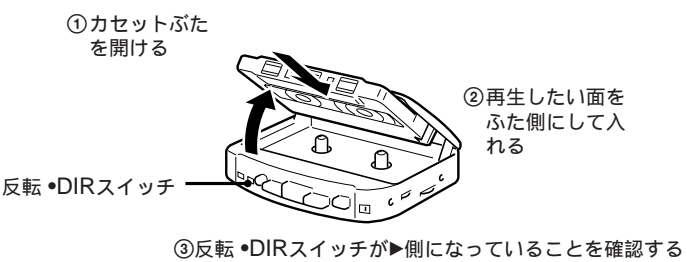


・FM、テレビ放送を聞くときは、ヘッドホンのコードがアンテナとして働くので、スピーカーで聞く場合もヘッドホンはつないだままにします。

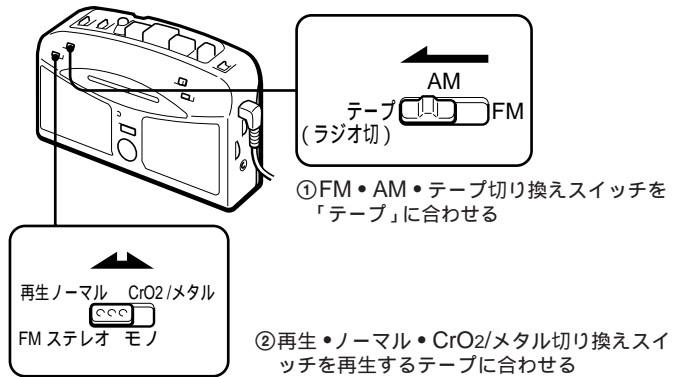
テープを聞く

テープ片面の再生が終わると、自動的に反対面の再生に変わり、両面を再生します。(オートリバー機能)

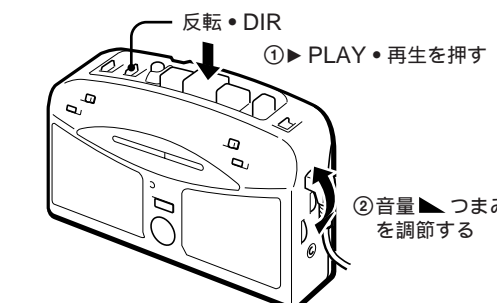
1 カセットを入れる



2 「テープ」にする



3 再生する



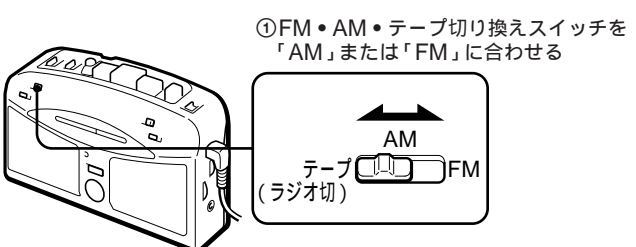
その他のテープ操作

操作	操作するボタンまたはスイッチ
再生面の切り換え	反転・DIR (◀または▶)に切り換え)
停止	■ 停止・STOP
早送り / 巻き戻し	停止中に◀または▶
* テープの再生方向を確認してから◀または▶を選んでください。	

ご注意
 テープ走行中はカセットぶたを開けないでください。

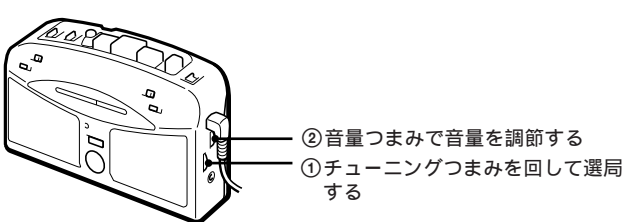
ラジオを聞く

1 「AM」または「FM」を選ぶ



・FM、テレビ放送を聞くときは、ヘッドホンのコードがアンテナとして働くので、スピーカーで聞く場合もヘッドホンはつないだままにします。
 ・テレビ(1chから3ch)の音を聞くときは、「FM」にします。

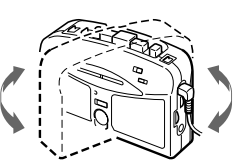
2 放送局を選ぶ



ラジオを消すには
 FM・AM・テープ(ラジオ切)切り換えスイッチを「テープ(ラジオ切)」に合わせます。

受信状態をよくするには
 AM放送

アンテナを内蔵しているので、本体の向きや位置を変えて、最もよく受信できる向きにしてお聞きください。



FM、テレビ放送

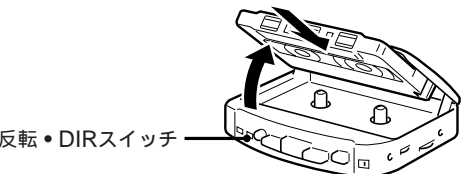
ヘッドホンのコードがアンテナになっているので、できるだけのばして使います。

録音する

片面録音ができます。録音には、TYPE I(ノーマル)テープをお使いください。ツメが折れている面には録音できません(「録音するときのご注意」参照)。

1 カセットを入れる

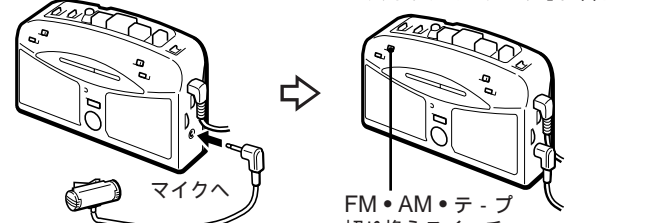
①録音をしたい面をふた側に仕入れる
 ②反転・DIRスイッチが▶(●REC・録音ボタン側)になっていることを確認する



2 音源を選ぶ

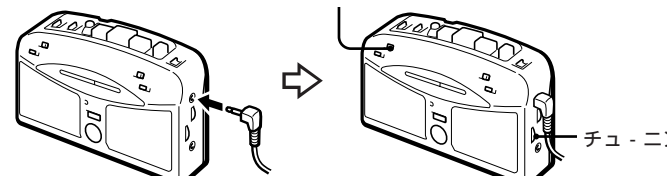
マイク録音の場合

①マイクをつなぐ
 ②FM・AM・テープ切り換えスイッチを「テープ」に合わせる



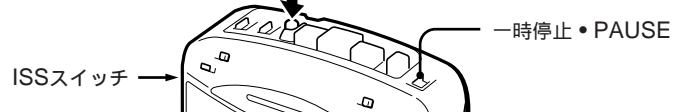
ラジオ録音の場合

①ヘッドホンをつなぐ
 コードがFM、TVのアンテナになっています。
 ②FMがAMを受信する(「ラジオを聞く」参照)



3 録音を始める

●REC・録音ボタンを押す



ご注意
 反転・DIRスイッチが◀側になっていると、●REC・録音ボタンは押せません。▶側に切り換えてください。
録音を一時停止するには
 録音中に一時停止・PAUSEスイッチを矢印の方向にすると、録音は一時停止します。録音を再開するときは、一時停止・PAUSEスイッチを矢印と反対の方向にします。

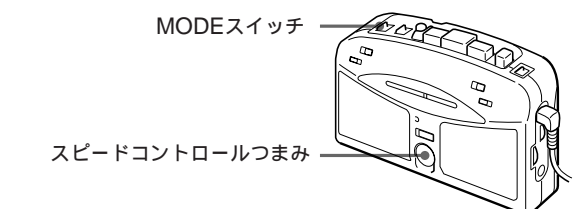
録音を止めるには
 ■ 停止・STOPボタンを押します。

AMを録音中に雑音聞こえたら

本体側面のISSスイッチを雑音が消える位置(1、2または3)に切り換えます。

▶テープを聞く - 応用

いろいろな聞きかたをする



□ テープの再生速度を調節する

約+25%から約-20%まで再生速度を変えることができます。本体のスピードコントロールつまみを次のように調節してください。

再生速度	つまみの操作
ゆっくり再生する	- 側に回す
速く再生する	+ 側に回す
通常速度で再生する	中心に戻す

ご注意
 録音速度を変えることはできません。

□ テープ走行のしかたを選ぶ

本体上面のMODEスイッチを切り換えて、テープ走行のしかたを選びます。

操作	MODEスイッチの位置
両面を繰り返し再生	◀
両面を1回再生*	◀
*反転・DIRスイッチが◀側になっているときは、本体側の面だけを1回再生し、テープの終わりで止まります。	

▶ラジオを聞く - 応用

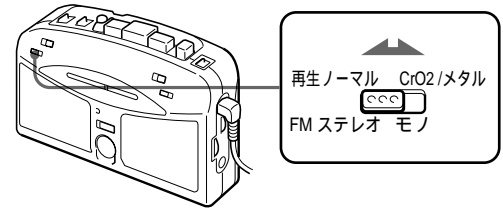
ラジオを聞くときのご注意

受信するとき

- ・このラジオのテレビ音声回路は、FM放送の受信回路と兼用になっています。このため、一部の地域ではテレビ2、または3チャンネルの音声を受信中、FM放送が混じって聞こえることがあります。その場合はお近くのサービス窓口にご相談ください。
- ・本体を他のラジオやテレビ、コンピューターなどに近づけると、ラジオに雑音が入ることがありますので、離してお使いください。
- ・一部の金属製のテープをお使いのとき、受信状態が悪くなる場合があります。その場合はテープを抜いてラジオをお聞きください。

ステレオ放送を聞くとき

ステレオ放送を聞くときはFMステレオ・モノ(モノラル)切り換えスイッチを「ステレオ」に合わせます。雑音が多いときは「モノ」にすると聞きやすくなりますが、ステレオではなくなります。また、AM、テレビはステレオにはなりません。



▶録音する - 応用

録音するときのご注意

録音レベルについて

録音レベルは一定です。録音される音は音量▲つまみや低音増強スイッチ、音量リミットスイッチの設定に影響されません。

テープが終わりまでくると

録音を始めた面の終わりで自動的に録音が止まります。録音を続けるときはテープ面を入れ替えて録音操作をしてください。

録音について

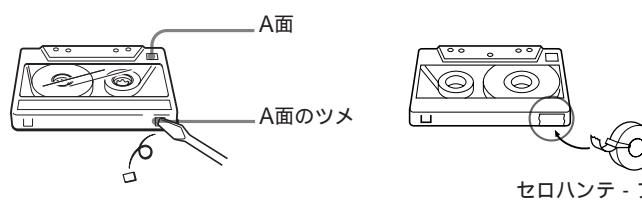
- ・REC・録音ボタンは録音開始の2秒くらい前に押してください。直前に押すと最初の部分が録音されません。
- ・録音するテープにはTYPE I(ノーマル)テープをお使いください。CrO2テープやメタルテープを使うと、再生する音がひずんだり、前の録音が消えずに残ったりすることがあります。
- ・録音中は反転・DIRスイッチは動きません。無理に動かすと故障することがありますのでご注意ください。
- ・電池が消耗して電池ランプが消えると、録音に雑音が入ったり、性能を十分に発揮できないことがあります。このような場合、なるべく早めに乾電池を新しいものと交換してください。
- ・録音中に音を開きたいときは、低音増強スイッチを「切」の位置にしてください。「中」や「強」にすると雑音聞こえることがあります。

マイク録音について

- ・録音中、マイクを電灯線や蛍光灯に近づけすぎると、雑音で録音されることがあります。
- ・ヘッドホンで録音モニター中に音量を上げると、その音をマイクが拾い、ピーという音(ハウリング)が生じることがあります。この場合には、音量を下げてください。
- ・付属のマイクは、本機につなぐと電源が本機から供給されるプラグインパワー方式です。
- ・マイク録音中はスピーカーから音は聞こえません。

大切な録音を守るには

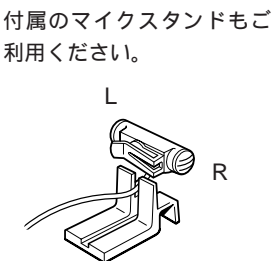
ツメを折って取り除きます。再び録音するには、穴をふさぎます。



ツメを折った面には、録音することができません。

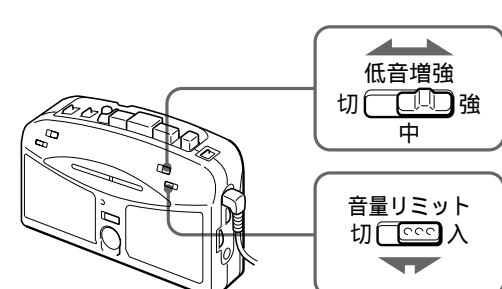


付属のマイクを使うには
 クリップはマイクを付ける場所に合せて方向が変えられます。



▶その他の機能を使う

好みの音に調節する



□ 低音を強調する

低音増強スイッチを「中」または「強」に合わせます。音がひずんだように聞こえる曲では「切」に合わせます。

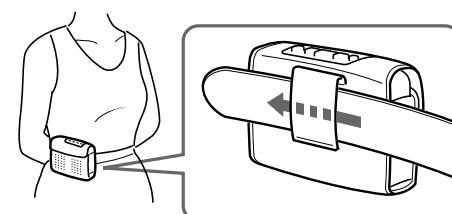
□ 音もれを抑え耳にやさしい音にする(快適音量)

音量リミットスイッチを「入」にします。音量リミットスイッチ使用中に、低音が強調された曲で音が波打つように聞こえるときは、音量を下げて使います。

低音増強、音量リミットスイッチは録音される音には影響しません。

キャリングケースを使う

付属のキャリングケースを使うと、ベルトにつけて聞くことができます。



▶電源

乾電池の取り替え時期は

電池が消耗すると、本体前面の電池ランプが暗くなります。テープ走行が不安定になったり、雑音が多くなるので、乾電池は新しいものと交換してください。乾電池は持続時間の長いアルカリ電池の使用をおすすめします。

電池の持続時間について (EIA)*			
使用電池	テープ再生時	ラジオ受信時	マイク録音時
ソニーアルカリ乾電池LR6 (SG)	約22.0時間	約48.0時間	約11.0時間
ソニー乾電池R6P (SR)	約7.0時間	約16.0時間	約3.5時間

(ヘッドホン使用時)
 *EIA(日本電子機械工業会)規格による測定値です。

ご注意
 電池持続時間は、使用条件によって短くなる場合があります。

コンセントにつないで使う

- 別売りのACパワーアダプターAC-E30L（日本国内用）またはAC-E30HG（海外用）を本体側面のDC IN 3Vジャックにつなぐ

電源は、自動的に内蔵の乾電池からACパワーアダプターに切り換わりま

- ACパワーアダプターをコンセントにつなぐ

コンセントにつないで使うときはご注意ください。
この製品には、別売りのACパワーアダプターAC-E30LまたはAC-E30HG（極性統一形プラグ：EIAJ規格）をご使用ください。上記以外のACパワーアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。



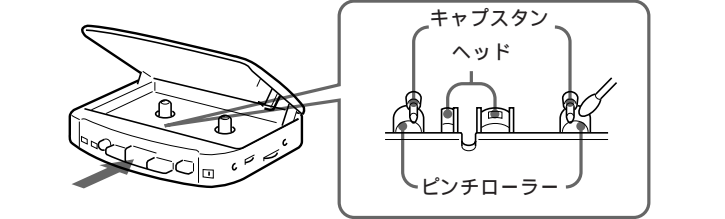
▶その他

お手入れ

よい音でテープを聞くために

10時間程度使ったら、別売りのクリーニングキットKK-WM1などでヘッド

とキャプスタン、ピンチローラーをきれいにしてください。



本体表面が汚れたときは

水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきます。シンナーやベンジン、アルコールは表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

使用上のご注意

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- ヘッドホンのコードを強く引っ張らないでください。
- 次のような場所には置かないでください。
 - 温度が非常に高いところ（60　以上）。
 - 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
 - 窓を閉めきった自動車内（特に夏季）。
 - 風呂場など湿気の多いところ。
 - 磁石、スピーカー、テレビなど磁気を帯びたものの近く。
 - ほこりの多いところ。
- 長い間本機を使わなかったときは、お使いになる前に数分間再生状態にして空回ししてください。
- 長時間テープについて
 - 90分をこえるテープは非常に薄く伸びやすいので、こきざみな走行、停止、早送り、巻き戻しなどを繰り返さないでください。テープが機械に巻き込まれる場合があります。また、薄しテープで録音すると、高音のびが悪くなる場合がありますので、なるべくお使いにならないでください。

ヘッドホンについて

付属のヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外に漏れます。音量を上げすぎて、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときははいつも呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

ワールドモデルをお買い上げのお客様へ
海外では保証書に記載の海外ソニーサービス特約店にご相談ください。

故障かな？

故障とお考えになる前に、次のような点をご確認ください。

症状	原因	処置
スピーカーから音が出ない	⊕（ヘッドホン）・スピーカー「スピーカー」に合わせる切り換えスイッチが⊕（ヘッドホン）になっている	
再生ができない	FM・AM・テープ切り換えスイッチの位置が違っている	「テ・ブ」に合わせる
ラジオが聞こえない	FM・AM・テープ切り換えスイッチの位置が違っている	「AM」または「FM」に合わせる
REC/録音ボタンが押せない	録音去防止用のツメが折れている	穴をゼロハンテープなどでふさぐ（「録音するときのご注意」参照）
	テープの走行方向が間違っている	反転・DIRスイッチを切り換えて走行方向を変える（「録音する」参照）
音量が大きくならない	音量リミットスイッチが働いている	音量リミットスイッチを「切」にする
低音が強すぎたりひずんだように聞こえる	低音増強スイッチが「中」または「強」になっている	低音増強スイッチを「切」にする
雑音が多く、音質がよくない	電池が消耗している	新しい乾電池と交換する
	ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーが汚れている	別売りのクリーニングキットKK-WM1できれいにする

FMの受信状態が悪い	ヘッドホンが抜けている	ヘッドホンをつなぐ
AMの受信状態が悪い	本体の向きが悪い	本体を回して受信状態のよいほうに向ける（「ラジオを聞く」参照）

FMの受信状態が悪い	本体の向きが悪い	本体を回して受信状態のよいほうに向ける（「ラジオを聞く」参照）
------------	----------	---------------------------------

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではラジオカセットコーダーの補修用性能部Ⓐ（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

<p>ワールドモデルをお買い上げのお客様へ 海外での保証とアフターサービスについて ・保証期間は、日本国内ではお買い上げより1年間、海外では90日です。 ・海外での修理やアフターサービスについてご不明な点は、保証書に記載の海外ソニーサービス特約店にお問い合わせください。</p>

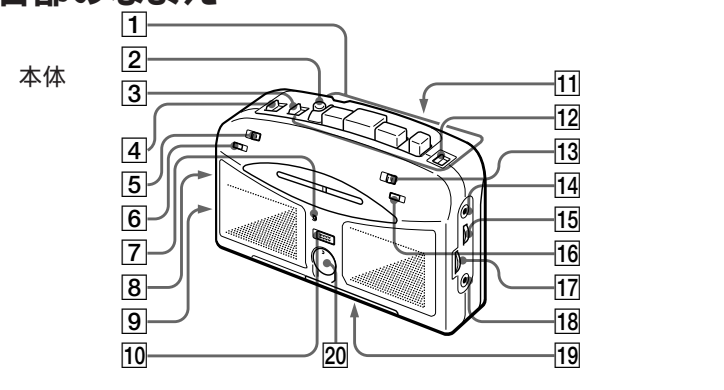
主な仕様

<p>テープレコーダー部・共通部</p> <p>トラック方式</p> <p>スピ・カ</p> <p>周波数範囲 (EIAJ)*</p>	<p>コンパクトカセットステレオ</p> <p>直径3.6 cm　2個</p> <p>再生時：40～15,000 Hz</p> <p>録音・再生時：100～8,000 Hz</p> <p>マイク(ステレオミニ)ジャック1個</p> <p>最小入力レベル　0.2 mV</p> <p>ヘッドホン(ステレオミニ)ジャック1個</p> <p>負荷インピーダンス　8～300</p> <p>スピーカー：110 mW + 110 mW (EIAJ)</p> <p>ヘッドホン：5 mW + 5 mW (EIAJ)</p> <p>DC 3 V</p> <p>単3形乾電池2個</p> <p>乾電池の持続時間については「電源」をご覧ください。乾電池は、持続時間の長いアルカリ乾電池のご使用をおすすめします。</p> <p>約116 × 89 × 39 mm (幅/高さ/奥行き)</p>
<p>入力端子</p>	<p>最大出力 (DC時)</p>
<p>出力端子</p>	<p>電源</p>
<p>実用最大出力 (DC時)</p>	<p>電池持続時間</p>
<p>電源</p>	<p>最大外形寸法</p>
<p>質量</p>	<p>質量</p>
<p>ラジオ部</p>	<p>受信周波数</p>
<p>受信周波数</p>	<p>FM(ステレオ)：76.0～90.0MHz</p> <p>AM(モノラル)：531～1,710kHz</p> <p>TV(モノラル)：1～3ch</p>

別売アクセサリー
ACパワーアダプター AC-E30L (日本国内用)、ACパワーアダプター AC-E30HG (海外用)、クリーニングキット KK-WM1、ステレオイヤ・レシ・パ。（ヘッドホン)MDR-E848V、MDR-E837V、カーバッテリーコード DCC-E230

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。
* EIAJ（日本電子機械工業会）規格による測定値です。

各部のなまえ



①	テ・ブ操作ボタン	⑨	DC IN 3Vジャック
②	REC・録音ボタン	⑩	⊕（ヘッドホン）・スピーカー
③	反転・DIRスイッチ	⑪	切り換えスイッチ
④	MODEスイッチ	⑫	カセットぶた
⑤	FM・AM・テープ切り換えスイッチ	⑬	一時停止・PAUSEスイッチ
⑥	再生ノーマル、CrO2/メタル	⑭	低音増強スイッチ
⑦	再生ノーマル、CrO2/メタル	⑮	⊕（ヘッドホン）ジャック
⑧	音量	⑯	音量
		⑰	音量リミットスイッチ
		⑱	チューニングつまみ
		⑲	マイク（プラグインパワー）
		⑳	ジャック
			電池ぶた
			スピードコントロールつまみ

<p>ソニー株式会社　〒141 東京都品川区北品川6-7-35</p>
<p>お問い合わせはお客様ご相談センターへ</p> <p>東京(03)5448-3311　名古屋(052)232-2611　大阪(06)539-5111</p>

English

SAFETY NOTES ON THE UNIT

WARNING

- To prevent fire or shock hazard, do not expose the unit to rain or moisture.
- Do not use headphones while driving, cycling, or operating a motorized vehicle. It may create a traffic hazard and is illegal in some areas. It can also be potentially dangerous to play your headphones at high volume while walking, especially at pedestrian crossings. You should exercise extreme caution or discontinue use in potentially hazardous situations.
- To prevent shock hazards, never open the unit while it is connected to the power source.

CAUTION

- Do not use headphones at high volume. Hearing experts advise against continuous, loud and extended play. If you experience a ringing in your ears, reduce volume or discontinue use.
- Keep the volume at a moderate level. This will allow you to hear outside sounds and to be considerate to the people around you.

SAFETY NOTES ON POWER SOURCES

To avoid battery leakage, fire, damage, explosion, etc., follow the descriptions below.

DANGER

- Do not carry dry batteries with coins or other metallic objects. It can generate heat if the positive and negative terminals of the batteries are accidentally contacted by a metallic object.
- Use only the Sony AC power adaptor AC-E30L for Japan (not supplied) or AC-E30HG for overseas (not supplied).
- To disconnect the AC power adaptor, only use the plug and not the cable.
- Do not charge a dry battery.
- Check the ⊕ and ⊖ on the batteries, and be sure to insert them by matching the ⊕ and ⊖ on the battery to the diagram inside the battery compartment.

CAUTION

- When you are not going to use your Walkman, please remove the batteries to prevent damage from battery leakage and corrosion.

Precautions

- Do not leave the unit in a location near heat sources, or in a place subject to direct sunlight, excessive dust or sand, moisture, rain, mechanical shock, or in a car with its windows closed.
- Do not wind the headphones cord around the unit. The buttons may be kept pressed, causing unnecessary battery usage.
- Do not use cassettes longer than 90 minutes except for long continuous playback or recording.
- To prevent accidental recording, break off the cassette tab from side A or B. If you want to reuse the cassette for recording, cover the broken tab with adhesive tape.
- If the unit has not been used for a long time, set it in the playback mode to warm it up for a few minutes before inserting a cassette.

<p>English</p>
<p>For cleaning the case, use a soft cloth slightly moistened with mild detergent solution. Do not use alcohol, benzine or thinner.</p>
<p>Notes</p> <ul style="list-style-type: none">The BATTERY indicator dims when the batteries become weak or exhausted. Replace them with new ones. The battery life may shorten depending on the operation of the unit. If the battery compartment lid comes off, attach it.
<p>To use external power</p> <ul style="list-style-type: none">For house current: Connect the AC power adaptor AC-E30L for Japan (not supplied) or AC-E30HG for overseas (not supplied) to the DC IN 3V jack.

Playing a tape

- Set the FM・AM・テープ (tape) to テープ (tape).

- Set 再生 ノーマル・CrO2/メタル (normal・CrO2/metal) switch to match the tape type.

- Insert a cassette and press ▶PLAY 再生(playback).

Design and specifications are subject to change without notice.

Troubleshooting

The sound is unstable or no audio.

- Insert two size AA (R6) batteries properly.
- Replace all batteries if they are weak.

Poor tape playback quality.

- Clean the headphones plug.
- Dirty heads. Clean them with a cotton swab slightly moistened with cleaning fluid or alcohol.

The volume is not turned up.

- 音量リミット(AVLS) is set to 切(off).

If you have any questions or problem concerning your Walkman, please consult your nearest Sony dealer.

Preparations

To insert batteries

Open the battery compartment lid at the bottom of the Walkman and insert two R6P batteries (supplied) by matching the + and – on the battery to the diagram inside the battery compartment.

Battery life (approximate hours)	(EIAJ)		
	Sony alkaline LR6 (SG)	Sony R6P (SR)	
playback	22	7	
radio	48	16	
mic recording	11	3.5	
radio recording	10	3	
Using headphones			

Recording

- Insert a TYPE I (normal) tape with the side you want to record on facing forward.

- Set 反転・DIR to ▶. When 反転・DIR is set to ◀, you cannot press ●REC 録音

- To record from the radio Set FM・AM・テープ (tape) to AM or FM.

You can choose from approximately +25% to –20% playback speed.

Turn スピードコントロール(speed control) to the left (slows down) or to the right (speeds up). To put back to the normal speed turn スピードコントロール(speed control) to the middle.

Playback Speed	Turn the knob
Slow speed	to the – direction
Fast speed	to the + direction
Normal speed	to the middle

Note

- You cannot change the recording speed by the スピードコントロール (speed control).

Listening to the radio

Since the headphone cord serves as an FM antenna, connect the headphones even when using the speakers.

- Set FM・AM・テープ (tape) to AM or FM.

- Tune to the station you want.

To turn off the radio
Set FM・AM・テープ(tape) to テープ(tape).

To stop recording
Press ■ 停止 STOP.

To record on the reverse side
Turn over the tape after recording stops on the forward side. The recording function works only on the forward side.

Tips

- To reduce noise while recording AM programs, set ISS to the position that most decreases the noise.

- Adjusting the volume or setting 低音増強(MEGA BASS) and 音量リミット(AVLS) will not affect the recording level. These controls will change the sound level you hear.

Notes

- Do not use a CrO2 (TYPE II) or metal (TYPE IV) tape for recording.
- When recording with the microphone, do not place it near a lamp cord or a fluorescent lamp as this may cause interference noise.
- If a howling occurs, turn down the volume.
- When recording with the microphone, the sound to be recorded cannot be heard through the speakers.